

令和3年度
No.3
学校だより



ちくま

令和3年5月20日
小諸市立千曲小学校
TEL: 22-0770

なかよし週間を振り返って



新型コロナウイルス感染症は、現在佐久圏域はレベル4になっています。レベル4になってから1ヶ月以上になります。なかなかレベルが下がることなく、毎日感染予防を心掛けながらの学校生活を送っています。変異株も増加してきています。いつどこで誰が罹患してもおかしくない状態です。感染された方への人権を侵害するような言動（詮索・誹謗・中傷・うわさなど）は絶対しないでください。感染された方の思いに心を寄せてください。

学校では、5月6日から「なかよし週間」でした。「なかよし週間」では、いじめや差別をなくしていこうとする心を育てようと、人権の係の先生からのお話や児童会主催の縦割り班での交流、ありがとうの木の取り組み、校長講話、姉妹学級での交流、なかよしに関わる授業を行いました。



なかよし週間を振り返って（5年）

5月6日から5月14日までなかよし週間がありました。そこで、学んだことが3つあります。

1つ目は、校長先生のお話での「自分は大勢の人たちのおかげで、生きている、生きられている。」という言葉です。理由は、生きているとは、人に何かをもらうことであり生きられているとは、人に支えてもらっていることで、私は「自分も先祖代々生きてきた人に支えられている。」と思ったからです。

2つ目は、道徳の時間に学んだお話です。そのお話は「あいさつって」と「友の肖像画」です。理由は、「あいさつって」は思いやりを持ち、あいさつをあいいたいと思いました。「友の肖像画」は、相手が自分を信じているから自分も相手のことを信じようと思いました。

3つ目は、2年生との交流会です。理由は、班で遊んだ時、かくれんぼとお絵かきをしました。その時、ペアの子が「ありがとう。」と言ってくれたのでありがとうってうれしいなと思いました。私は、今回のなかよし週間では、人にやさしくすれば、やさしさやうれしさが返ってくるということが分かりました。なかよし週間は終わってしまったけれどこれからもいろいろな人にやさしく、仲良くしていきたいです。

なかよし週間を振り返って（6年）

私は、このなかよし週間で「ありがとう」と言うことが大切だと感じました。先週、ありがとうの花を上げんかん前の木にはっていました。すると3年の子が「私も手伝うよ」と言ってくれました。はっていくうちに、その子が書いた花を見つけました。「書いてくれたんだね。ありがとう」と言ったら、その子も「私、Kくんが消しゴム落としたから拾ってあげたら、ありがとうって言ってくれてうれしかった。ありがとうって言うと、もっと仲良くなれるんだね。」と言いました。私はその時「ありがとう」って大切な言葉だと感じました。「ありがとう」って言うと相手も自分もうれしくなって仲を深められたら、すてきだと思います。だから、友だちとケンカしてしまっても「ありがとう」を言ったら仲直りできると思います。これからもたくさんの人に「ありがとう」を言って、もっと「ありがとう」の言葉を好きになりたいです。